

16. 脂質異常症とはどんな病気でしょうか？

脂質異常症とは、血液中に含まれている脂質であるコレステロール、あるいはトリグリセライド（中性脂肪）が過剰に増加した場合と、非常に低下した場合とがあります。過剰に増加した場合は高脂血症（高コレステロール血症、高トリグリセライド血症など）、非常に低下した場合に低脂血症（低コレステロール血症、低トリグリセライド血症など）と分けて呼ぶこともあります。

脂質異常症がなぜ問題にされるかといいますと、脂質異常症があると動脈硬化が発症し、動脈硬化によって心筋梗塞や脳梗塞が起り、死の危険性が高まるからです。

血液中の脂質は、水に溶けないためにアポたんぱく質と結合して、リポ蛋白となって存在しています。リポ蛋白には数種類があり、カイロミクロン、超低比重リポ蛋白（VLDL）、低比重リポ蛋白（LDL）、高比重リポ蛋白（HDL）などに分けられます。

リポ蛋白の種類により動脈硬化が進行する危険性の高いもの（LDL）と、動脈硬化になり難いリポ蛋白（HDL）とがあることが分かってきました。動脈硬化を促進させるリポ蛋白が増加していれば悪い状態と判断されます。一方、動脈硬化の発病を抑えてくれるリポ蛋白は増加した状態が好ましく、低下した状態は悪い状態と判断されます。このため、悪いものが増えている高脂血症と、良いものが低下した低脂血症とを合わせて呼ぶ場合に脂質異常症と云うようになりました。

現在、脂質異常症としてとりあげられているのは、

- ① 高 LDL コレステロール血症
- ② 高トリグリセライド血症
- ③ 低 HDL コレステロール血症

の三つです。高 LDL コレステロール血症による高コレステロール血症は動脈硬化の発症リスクが高い状態ですが、高 HDL コレステロール血症による高コレステロール血症は動脈硬化が進行する危険性は低いと考えられています。この三つのタイプが別々に現れる場合と合併して現れることもあります。